

学習指導要領の改訂に向けた動きなど
お役立ち Hot 情報をお届けするニュースレター

きょういく プレス



平成 27 (2015) 年 10 月 29 日

第 2 号

発行 株式会社ぎょうせい

(隔週木曜発行)

〒 136-8575 東京都江東区新木場 1-18-11

フリーコール 0120-953-431

フリー FAX 0120-953-495

Web サイト <http://gyosei.jp>

e-mail business@gyosei.co.jp

「ぎょうせい」は、学校教育に携わる皆様のため、教育行政・学校学級経営・教科教育・授業づくりに関する書籍をはじめ、様々なコンテンツをご提供しています。

中央教育審議会

教員養成部会

教員の研修・採用・養成の 一体改革を提案

中央教育審議会教員養成部会は 10 月 15 日、教員の研修・採用・養成などについての一体改革を提案する答申素案をまとめた。教員養成指標などを検討する「教員育成協議会(仮称)」の創設や、教員採用試験の共通問題作成、学校インターンシップの導入など、大幅な改革案を盛り込んだ。

●「教員育成協議会(仮称)」を創設

素案では、都道府県と指定都市に「教員育成協議会(仮称)」の創設を提案。教員が身に付けるべき能力として「教員育成指標」を策定し、これに基づいた研修や免許更新講習のプログラムを検討する。

また、十年研修を廃止し、「中堅教員能力向上研修(仮称)」を新設。中堅層の不足がいわれる中、経験年数を問わずミドルリーダーを育成することがねらいだ。

●教員採用に共通問題

教員採用の問題作成について、各教育委員会への支援が必要とのことから、共通問題を作成することを提言。選考試験にも新たな教育課題への対応が必要とのことから、各都道府県の採用選考の内容分析を行う一方、(独)教員研修センターには、共通問題作成に関与することを求めた。

●教職課程に学校インターンシップを導入

これまでの審議で指摘された、養成段階における最低限の基礎的・基盤的な学修や学校現場での実体験の場の充実などを受け、教職課程にも改革を求めた。

具体的には、現在の「教職に関する科目」を改編し、新たに「教育の基礎的理解に関する科目」を新設することを求めた。教育方法に関する科目ではアクティブ・ラーニングも視野に入れたものとする。

さらに、教育実践に関する科目では、インターンシップを導入。5 単位の教育実習のうち、2 単位をインターンシップに充てることが妥当とした。インターンシップでは、学校行事や部活動などを含めた教育活動全般について経験する。

採用から研修まで、教員にもこれからの時代に対応できる資質・能力の育成を求めた素案となったといえようか。

財務省が教員削減策、 9年間で3万7000人を要求

●文科省との隔たり大きく折衝は難航か

財政制度等審議会（財務大臣の諮問機関）は、10月26日、公立小中学校の教職員定数を今後9年間で3万7000人削減する方針を決定した。

平成36年度までに児童生徒数が94万人減り、現在の学級数も2万1000減るとの試算から、現行10クラス当たり18人の教員数を維持しても9年間で3万7000人の削減が可能との根拠だ。当面、平成28年度には3500人を削減し、以後も同規模の削減を求めていく意向。この方針に基づけば、現在教職員人件費の国庫負担分約1兆5000億円に対し、来年度は約70～80億の削減となり、9年間では約800億円の削減となる見込み。

これに対し、文部科学省では、いじめ・不登校の対応や子どもへの学習支援、部活対応、慢性化している教員のオーバーワーク解消のため、8月の概算要求では平成28年度の教員削減数を60人としている。また、平成36年度では、現行より5000人減にとどめる方針を打ち出しており、予算折衝での難航は必至とみられる。

教員を増やしても効果が見えづらいなどとする財務省と、きめ細かな教育活動を進めようとする文科省の交渉はこれから本番を迎える。

月刊シリーズ『新教育課程ライブラリ』（全12巻／平成28年1月中旬刊行開始） 無料パイロット版が11月初旬に完成!!

次期学習指導要領に向けての新しい情報を毎月お届け!

新教育課程ライブラリ

（全12巻／毎月16日刊行予定）

Vol.0 [パイロット版] (無料)

平成28年
1月刊行開始!

保存版 新課程キーワード解説

キーワード解説
育成すべき資質・能力 [科目横断] / アクティブ・ラーニング [国・科・学]
パフォーマンス評価 [知識・技能] / カリキュラム・マネジメント [指導方法]
社会に開かれた教育課程 [学習意欲] / 評価の観点 [基礎知識]
外国語教育 [言語] / 「特別の教科 道徳」 [徳・道徳]

Interview
次期指導要領は「学び方」を変えるチャレンジ
無藤 隆 (白梅学園大学教授)
学校の主体性を発揮した教育課程の創造が課題
—新教育課程に向けての学校現場の課題—
天笠 茂 (千葉大学教授)

提言
教科の本質に迫る授業研究を—教える教材から資質・能力を育む教材へ—
奈須正裕 (上智大学教授)

平成28年6月30日まで
全12巻セット特価
14,400円 (税別)
（1巻あたり1,200円/480円）
1,800円 (税別) がセットでお得!!
（通常セット価格16,200円/税別）
（1巻あたり1,350円/450円）のところが
お得なのでご留意ください。

ご予約受付中!
03-6362-1111 (受付時間: 10時～18時)
お申し込みください。

▲パイロット版表紙

*パイロット版の仕様はA4判/32ページです。
*パイロット版は数に限りがございます。

- 『新教育課程ライブラリ』については本「きょういくプレス」の最終面をご覧ください。
- 無料パイロット版は、11月初旬より順次、全国の小中学校にお届けしてまいります。ご希望の方は弊社までご一報ください。

■ Interview

無藤 隆 (白梅学園大学教授)

次期指導要領は「学び方」を変えるチャレンジ—論点整理に見る改訂の方向性—
天笠 茂 (千葉大学教授)

学校の主体性を発揮した教育課程の創造が課題—新教育課程に向けての学校現場の課題—

■ キーワード解説

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 育成すべき資質・能力 | 村川雅弘 (鳴門教育大学大学院教授) |
| 2 アクティブ・ラーニング | 田村 学 (文部科学省初等中等教育局視学官) |
| 3 パフォーマンス評価 | 西岡加名恵 (京都大学大学院准教授) |
| 4 カリキュラム・マネジメント | 田村知子 (岐阜大学大学院准教授) |
| 5 社会に開かれた教育課程 | 吉富芳正 (明星大学教授) |
| 6 評価の観点 | 脇田哲郎 (福岡教育大学教授) |
| 7 外国語教育 | 菅 正隆 (大阪樟蔭女子大学教授) |
| 8 「特別の教科 道徳」 | 林 泰成 (上越教育大学教授) |

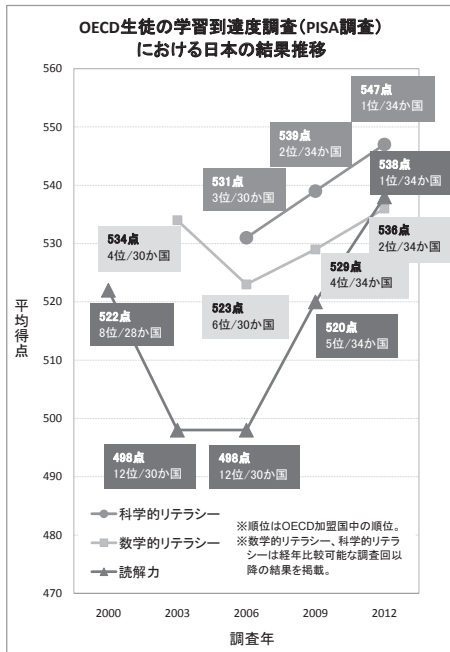
■ 提言

奈須正裕 (上智大学教授)

教科の本質に迫る授業研究を—教える教材から資質・能力を育む教材へ—

数字あっとラダム

15歳児を対象とした国際学力調査 PISA。2012年調査の結果、日本は、数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの3分野すべてにおいて、平均得点が過去最高となった（平均得点が比較可能な調査回以降）。2012年の15歳児（高1）は、学力論争の引き金となった“PISAショック”の年—2003年の小1。各学校の「真摯な取組」が学力向上の成果をもたらしたと文科省は評している。



Key Word

「2030年」

次期指導要領の方向性を議論してきた中央教育審議会教育課程企画特別部会は、次の一文から始まる「論点整理」を今夏とりまとめた。「本『論点整理』は、**2030年の社会と、そして更にその先の豊かな未来を築くために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割を示すことを意図している。**」

次期指導要領は、東京オリンピック・パラリンピックの開催年—2020年に実施され、(過去、指導要領の改訂が約10年ごとに行われてきたということ踏まれば)その10年後の2030年頃までの間、子どもたちの学びの基盤として重要な役割を担うことになる。

教育の未来像を描くにあたり一つの目標となる「**2030年の社会の在り方**」を見据えながら、**変化する社会の中に学校を位置付け、社会に開かれた教育課程の実現をめざす**という今回の改訂の基本的な方向性が、「論点整理」で明確に示されたといえる。

新時代にふさわしいコンピテンシーや授業法、アクティブ・ラーニングをはじめとする学習法など様々な観点から、日本とOECDが2030年に向けた教育の在り方を共同研究するプロジェクトもすでに始動している。今回の指導要領改訂の動きは国際的な潮流の中においてもモデルとして注目されている。



今日の話

10月 ◆ 29日 トルコ共和国成立 (1923) ◆ 30日 教育勅語発布 (1890)
◆ 31日 ガス記念日/ハロウィン

11月 ◆ 1日 ラジオ体操放送開始(1928)/灯台記念日 ◆ 2日 国民服令(1940)
◆ 3日 日本国憲法公布 (1946) /文化の日 ◆ 4日 ユネスコ憲章記念日・ユネスコ発足 (1946) /バラク・オバマがアフリカ系アメリカ人として初のアメリカ大統領に当選 (2008) ◆ 5日 イギリス人考古学者のハワード・カーターによりツタン

カーメン王墓開かれる (1922) ◆ 6日 戊申戦争・会津藩降伏(1868)/アパート記念日 ◆ 7日 国会議事堂落成(1936) /ロシア革命記念日 ◆ 8日 立冬 (2015) /いい歯の日 ◆ 9日 ナポレオンによる軍事クーデター発生、フランス革命の終焉 (1799) /119番の日/秋の全国火災予防運動 (~ 11/15) ◆ 10日 ベルリンの壁崩壊 (1989) /肢体不自由児愛護の日 ◆ 11日 第一次世界大戦・ドイツと連合軍が休戦協定締結 (1918) /サッカーの日/電池の日 ◆ 12日 皮膚の日 ◆ 13日 日本で100年ぶりに新種の鳥発見、「ヤンバルクイナ」と命名 (1981) /茨城県民の日 ◆ 14日 埼玉県民の日/大分県民の日 ◆ 15日 きもの日/昆布の日

●●○ 10/29 ~ 11/15 生まれの著名人 ○●●

井伊直弼 (29日)、つんく (29日)、東海林さだお (30日)、仲間由紀恵 (30日)、乙羽信子 (31日)、服部良一 (31日)、服部克久 (1日)、阿川佐和子 (1日)、深田恭子 (2日)、マリー・アントワネット (2日)、山口誓子 (3日)、手塚治虫 (3日)、泉鏡花 (4日)、西田敏行 (4日)、宮本慎也 (5日)、ヴィヴィアン・リー (5日)、松岡修造 (6日)、伊原剛志 (6日)、伊集院光 (7日)、長瀬智也 (7日)、岸本斉史 (8日)、マーガレット・ミッチェル (8日)、野口英世 (9日)、梅沢富美男 (9日)、糸井重里 (10日)、原日出子 (10日)、フォードル・ドストエフスキー (11日)、中西圭三 (11日)、オーギュスト・ロダン (12日)、岩崎宏美 (12日)、岸信介 (13日)、木村拓哉 (13日)、こおろぎさとみ (14日)、力道山 (14日)、加藤みどり (15日)、内田康夫 (15日)

平成 28 年 1 月
刊行スタート!

ご予約受付中

教育の新しい10年を見据え、今日の実践に生かす
スクールリーダーと次世代リーダーのための月刊シリーズ

新教育課程ライブラリ

□ 全 12 巻 □

A4 判、表紙オールカラー、本文 96 頁 (2 色刷り 16 頁 / 1 色刷り 80 頁)、横組
ぎょうせい / 編

平成 28 年度に迫る学習指導要領改訂。

ムック形式のワイド&ビジュアルな誌面で
教育の新たな潮流をいち早くキャッチ!

改訂に向けた動きをつぶさに追いながら、
日々の学校経営や授業実践に役立つ
旬の情報を毎月お届けします。

セットでのご注文がお得です!

各巻定価: 本体 1,350 円+税
セット定価: 本体 16,200 円+税 のところ

11%OFF

セット特価: 本体 14,400 円+税
(1巻あたり、本体 1,200 円+税)

*セット特価の適用は平成28年6月30日小社着注文分までとなります。
*セットご注文の場合:【送本】各巻発行のつど本をお送りいたします。平成28年1月~12月、毎月月中旬発行予定です。【請求】原則、初回送本時にセット一括でご請求(請求書類を同送)いたします。巻ごとの請求をご希望の場合は、その旨小社までご一報ください。
*バラでのご注文の場合:【送本・請求】ご注文の巻が発行次第、本と請求書類をお送りいたします。

■巻テーマ

- Vol.01 (平成 28 年 1 月配本) 新教育課程型授業を考える—アクティブ・ラーニングの理論と実践
- Vol.02 (平成 28 年 2 月配本) 学校現場で考える「育成すべき資質・能力」
- Vol.03 (平成 28 年 3 月配本) 子どもの姿が見える評価の手法
- Vol.04 (平成 28 年 4 月配本) 21 世紀型学力の育成と管理職のリーダーシップ
- Vol.05 (平成 28 年 5 月配本) 学校ぐるみで取り組むカリキュラム・マネジメント
- Vol.06 (平成 28 年 6 月配本) 「チーム学校」によるこれからの学校経営
- Vol.07 (平成 28 年 7 月配本) これからの授業力と研修
- Vol.08 (平成 28 年 8 月配本) 特別支援教育の実践課題
- Vol.09 (平成 28 年 9 月配本) カリキュラムからみる不登校対応
- Vol.10 (平成 28 年 10 月配本) 全国学力調査にみるこれからの課題
- Vol.11 (平成 28 年 11 月配本) 社会に開かれた教育課程」を考える
- Vol.12 (平成 28 年 12 月配本) 見えてきた新学習指導要領—各教科等の検討内容

*テーマ名は変更する場合がございます。

- 文科省関係者、研究者、学校管理職や授業者など第一線の執筆陣!
- インタビュー、論考、実践レポート、エッセイ、管理職の目、現場教師の声。多角的に教育の今に迫ります。



●隔週、時々話題に応じて2ページまたは4ページという紙面構成で、学校の先生方のお仕事に関するニュース・トピックをお届けする「きょういくプレス」。第2号はいかがでしたでしょうか? ●ご感想、ご意見、取り上げてほしい話題など、読者の皆様の声をお待ちしております。●「きょういくプレス」のメール配信(無料サービス)のお申し込みを受け付けています。第1号発行後、続々とお申し込みが寄せられています。お申し込みいただいた皆さま、ありがとうございました。まだの方はぜひお申し込みください。お手続きの方法については別紙をご覧ください。

●ご注文・お問い合わせ先

(株)ぎょうせい

フリーコール 0120-953-431
フリーFAX 0120-953-495
Web サイト <http://gyosei.jp>
e-mail business@gyosei.co.jp

●取扱者